再び「真光寺川を歩く」

真光寺川部会　山口　拓郎

1.「源流が知りたい。」

「昨年は溜池で流れを見失いましたね。今年は源流を突き止めたいものです。」松尾会長のこんな言葉から今年も「真光寺川を歩く」ことになつた。

この１年真光寺川周辺は大きく変貌した。稲田も畑地も桃畑も剥出しの原野になつてしまつた。開発の波は容赦ない。

我々にも多少の変化があつた。

1）１月から毎日、透視度、水位、水質の観察を始めた。

2）「川の水をきれいにする会」を通じて真光寺川を愛して止まない五条さんとお知合になれた。

3）真光寺町生え抜きの榎本さんと知己になり生きた情報が得られるようになつた。

4）「トンボの池」と云う共通の夢が出来た。

2. 天気晴朗ナレド、風サワヤカ。

７月１０日午後２時、鶴川駅に集合した。日射しは強烈だつたが風は爽やかだつた。松尾、田中、卯月、柏木、大山さん、それに五条さんと私の７名、元気な顔を揃えた。

世田谷街道と交差する矢崎橋から出発する。水は思いのほか透明だ。川底の岩盤が剥出しになつて瀬を作っている。岸辺には背丈程の葦が繁っている。W状の鋼杭が打込まれている。田中さんの解説によると動植物の生育に良いのだそうだ。

コンクリートのオブジェが数十mにわたつて川底に敷きつめられている。「人工の瀬を作り水の浄化を図っているのであろう。」と云うのが我々の結論だつた。

周辺は見渡す限り開発地、ブルが砂埃を挙げて駆け回っていた。

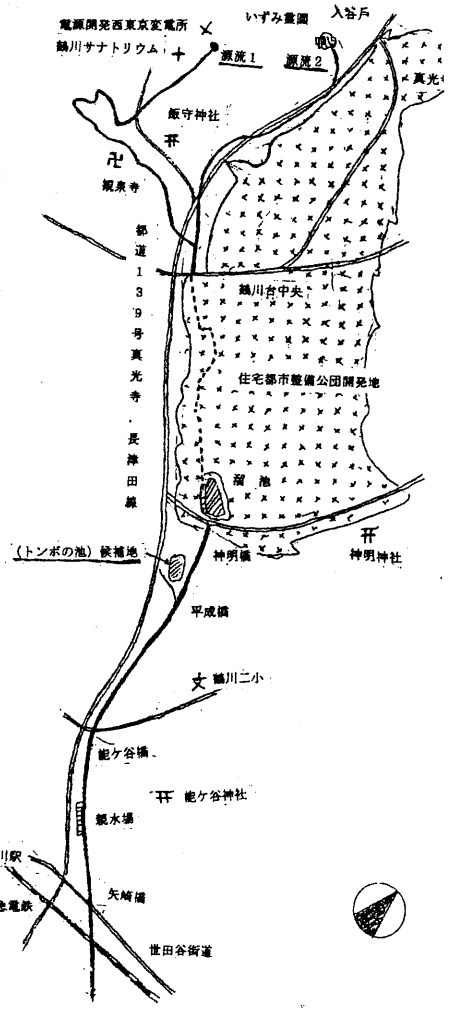
3. 親水場では亀のお出迎え

やがて親水場に至る。毎日、観察に通つている場所だ。

流れの中央に亀がポッカリ浮かんでいた。ついぞ見かけたことがない。ご一行をお出迎えに現れたのであろうか。

２尺はある緋鯉が２匹、悠々と遊泳している。数日前の増水以来姿を見せるようになつた。先住の真鯉が１９匹いるが縄張り争いは大丈夫だろうか。

五条さんは何度か稚魚を放流したそうだ。「育った気配がないのは鯰の餌食になつてしまつたに違いない。」と嘆いていた。



4. トンボの幻影を見た

先月、鶴見川で観測をしている時こんなやりとりがあつた。

五条さんが「真光寺川の上流にトンボの池を造りたいものですね。」と夢を語った。

それを聞いて榎本さんが興味を示した。榎本さんは真光寺町で長年町内会長等世話役を務められ、地元と行政の間に立って苦労されている方だ。開発計画にも参画しているそうだ。「残念ですが当日ご一諸出来ません。候補地を探して見て下さい。」と云うのが我々に対する宿題だつた。

平成橋のたもとに小公園がある。石が組まれ円形劇場風の憩いの場になつている。辺り一面青々とした田圃で雑木林が遠望される。谷戸の風景だ。一筋の清流が真光寺川に注いでいる。

誰かが「此処がいい！」と叫んだ。トンボの池にこれ以上の場所はあるまい。地域の子供達とも連携して・・・。夢は次々拡がる。皆の顔が輝いた。一瞬トンボの幻影を見たように思った。

5. 溜池に小魚の影・・・

やがて神明橋、此処でコンクリートの暗渠に突き当たる。暗い洞窟の先に鈍く光るものが見える。道路を隔ててある溜池の水面である。

立入禁止の標識、鉄条網で囲われている。岸辺はススキやクズの夏草で覆われている。

不法侵入者の先客、二人の少年が釣糸を垂れていた。「釣れるかい？」と聞くと「今のところ、ナッシング」と答える。

足場の悪い水辺に降り水質の調査をする。

透視度：１９ｃｍ　　ＰＨ：７．０

ＣＯＤ：８、０

いずれ住宅都市整備公団の開発が完了したら街区公園にする計画らしい。「水辺の遊び、憩い、出会いとふれあいのゾーン」想像するだけで楽しい。

鈍く光る水面をすかして小魚の影が見えた。逞しくその日を待っているのだろう。

6. 川が消えた

溜池で真光寺川は消える。開発地の地下の暗渠に導かれる。

この辺り豊かな谷戸であつたと云う。田園が拡がり川は田畑を潤していた。かつて真光寺川は村人にとつて恵みの流れであり、一匹の龍（流）であつた。その龍が胴の部分で断ち切られてしまつている。いや龍は地下に身を潜めているのだ。

開発地に足を踏み入れる。週末であるが工事現場は活況を呈している。誰かが「公共投資の拡充に関係がありそうですね」と云う。

柏木さんが現場の人に声をかける。「暗渠は幅３９００mm・・」と聞き取れた。広大な開発地を歩く。

住宅都市整備公団のイメージ図によると暗渠の上の地上に流れを造る計画になつている。それに沿って遊歩道が造られる。「せせらぎの道」である。

子供達が水遊びができる場所であつてほしいものだ。エコネツトとして榎本さんを通じて要望を出したい、そんな意見が出されていた。

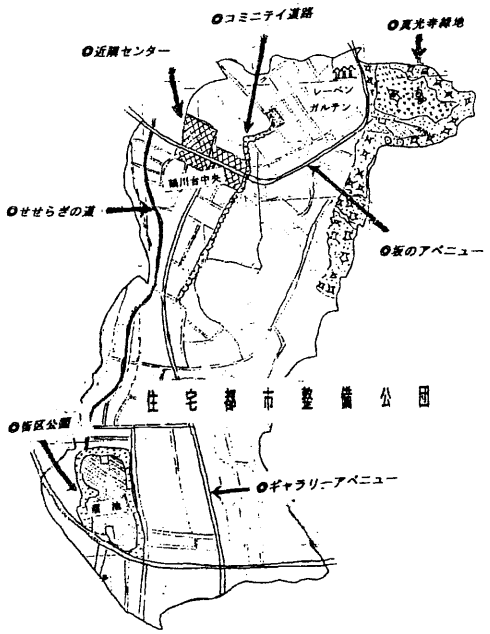
7. 西の流れの源流を探る

開発地を経て鶴川台中央に出る。スーパーや大型店が軒を接している。

そのはずれに真光寺川はヒョツコリ顔を出す。ここで流れは東西に分かれる。

都市整備

鶴川台イメージ図



先ず西側の１本を探索する。
流れは車の往来の激しい「都道１３９号」の下をくぐり田園地帯に入る。小高い丘陵に沿って田圃のへりを流れている。
水は澄明、透視度は９８ｃｍだつた。
２００ｍも進んだろうか。第１の難所に差しかかる。コンクリートの城塞だ。一人一人、壁をよじ登り鉄の枠を乗り越える。卯月さんが身軽なところを披露する。
そこは観泉寺の山門だつた。
金光山．観泉寺は由緒ある古刹である。伝承によると境内地は古寺天台宗真光寺の廃寺跡で開基は寛永３年に遡ると云う。六地蔵が柔和な表情で並んでいた。

8. ブッシュを掻き分けて

寺院の外縁を巡るように流れは進む。此処からが最大の難所である。道らしきものは全くない。腰まであるブッシュを掻き分け掻き分け進む。足場は脆弱で油断すると流れに落ちかねない。
ようやく田圃の畦に出る。川幅は２ｍばかり、木陰をサラサラと流れている。水量は豊かで冷たい。透視度１００ｃｍ。川藻の影で魚影が光って消えた。
流れは迂回して北に向かう。
この辺りで川の様子が変わる。近くに湧水があるのだろう。先は急に流れが細くなる。幅１ｍ弱、川と云うより一筋の溝になつてしまう。
ほどなく田圃を離れ住宅地に入る。サナトリュムの縁を経て電源開発の敷地に消えてしまう。その先は暗渠である。
源流と云うには拍子抜けする結末であつた。
近くの飯守神社の境内で一服して交々感想を語りあつた。

9. もう一つの源流を求めて‥

「もう一つの東の流れの源流はどうなつているのだろうか？」何か後に引けない意地みたいなものを感じていた。気合をこめて立上がる。真光寺のバス停に出る。
東側の流れは都道１３９号線を縫うようにジグザグに北上する。車の排気ガスを避けながら道の右へ左へ顔を覗かす流れを確かめながら進む。
坂の中途左手の窪みの辺りで忽然と消えてしまつた。道の下で大山さんが「無い無い」と手を振って合図する。
田中、五条さんと峠を登り切った入谷戸で一服する。
この地点が分水嶺だ。地図の上では此処を境に一つの流れは真光寺川へ、他の一つは片平川になつている。
松尾、大山さんが仲々現れない。漸く二人が意気揚々と坂を登って来る。
峠の手前、枝道が左手にそれている。予想に違わず流れが地上に顔を出し、更にたどると「いずみ霊園」の下で池に行き着いた。「これこそ東側の流れの源流に違いない」と二人は確信したと云う。
ようやく目的を果たした。我々は晴々とした気分でバス停に向かった。

10. 盛上つた反省会

駅前の焼鳥屋「大将」へ急ぐ。
五条さんの言によると「小田急沿線で最もウマイ焼鳥屋だ」そうだ。
炎天下の探索で喉はカラカラに乾いていた。五臓六腑にビールがしみわたり飲むほどにトーンは上がる一方だつた。
「トンボの池」「稚魚の放流」「川の浄化」「ゴミの処理」「環境ホルモン」等話題は尽きない。
長い夏の日が暮れてようやくお開きとなつた。

（おわり）